

I R だより

～ I R (INSTITUTIONAL RESEARCH) の“今”を分かり易くお届け～

文科相「大学間の連携強化や統合・再編の促進」 を中教審に諮問

盛山正仁文部科学大臣は、9月25日に開催された中央教育審議会総会で「少子化はわが国が直面する最大の危機。高等教育全体の適正規模や、国公私別の役割分担の検討が必要だ」と述べ、急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について諮問しました。大学の統合・再編の促進を議論の柱とし、定員規模の是正に向けた新たな政策につなげる趣旨で、2025年3月までの答申を求めています。

中教審は2018年、経営困難な私立大学に撤退を含む判断を促す指導を国に求め、私立大学間で学部譲渡を進めるなどの改革を答申にまとめました。文科省は、その後の大学の動きが不十分で、2040年代には入学者が10万人以上減少し、現在の定員総数（約63万人）の8割程度（50万人前後）に減るとの推計もあり、定員割れの大学の続出が予測されるとして「国公立の枠を超えた連携や統合・再編の議論は避けられない」と判断。新たな枠組みや規制に関する制度の検討を進めることにしました。

主な諮問項目は、「1. 2040年以降の社会を見据えた高等教育が目指すべき姿について」、「2. 今後の高等教育全体の適正な規模を視野に入れた、地域における質の高い高等教育へのアクセス確保の在り方について」、「3. 国公私の設置者別等の役割分担の在り方について」、「4. 高等教育の改革を支える支援方策の在り方について」の4項目であり、「大学間の連携強化や統合・再編の促進」「デジタル・脱炭素といった成長分野の人材育成」「地域における質の高い高等教育の在り方」「教育や経営に関する情報公開。特に地方の小規模私立大学は定員維持の見通しが厳しく、教育機会確保のため地域社会との連携推進」などが重要な議題になると見られています。また、海外と比較した研究力低下への懸念が強く、研究費における公的支出や民間投資の確保策や大学生らの学費を支える制度をどう改めていくかも話し合われます。

日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、定員割れの私立大学が今年初めて5割を超え、状況は厳しさを増しています。

キャンパスライフレポート2022完成

当室では、旧大阪医科大学において「学勢調査」、旧大阪薬科大学において「学修支援・生活支援アンケート」として、それぞれ実施されてきた学生に対する調査を発展的に見直し、統合後の新大学として相応しい新たな全学調査として「大阪医科薬科大学 学生調査」を企画・立案し、教育機構、学生生活支援機構、学務部、薬学学務部の協力、連携の下、2022年度から実施し、この度、その報告書である「キャンパスライフレポート2022」の上梓に至りました。



全学調査化にあたり、全学部で質問を共通化、実施時期も対象年度の10月から1月までとし、回答方法もインターネットを用いる形に統一しました。

回答率は、医学部の学修部分86.7%、学生生活部分88.6%、薬学部85.0%、看護学部83.2%と高い水準を確保しました。

冊子の構成としては、調査項目毎に「Ⅰ. 学修実態」、「Ⅱ. 学生生活」、「Ⅲ. 総合評価」に分けた章立てとし、全学的な質問項目については、一つの質問項目毎に各学部の結果が比較できるように配置し、学部毎に内容が異なる項目については、学部毎に纏めるような構成としており、学部特性が具体的に確認できることから、多くの教職員の皆様に関心を持って御覧頂けるものと自負しております。

冊子版につきましては、10月中を目途に学生と関わりのある各部署・センター等に配付を行い、また、PDF版につきましては、各学部の教室、教授、関連部署等にメールで配信する他、概要は大学ホームページにて公開致します。

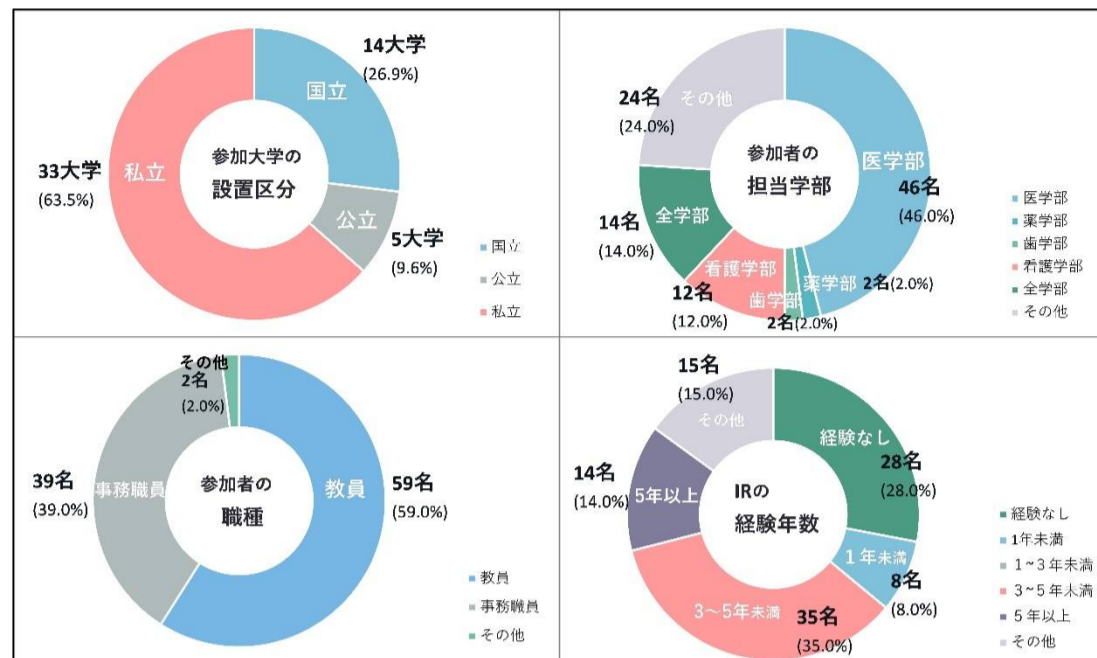
なお、学生調査の全学調査化に当たっての当室の取り組みにつきましては、「全学的な教育の質保証のための学生調査のデザイン」として、当室村上公子主任と柄澤健史副室長が、昨年11月に開催されたMJIR2022（第11回大学情報・機関調査研究会）において、事例報告を行っておりますので、ご関心がおありでしたら、以下もご参照下さい。



https://www.jstage.jst.go.jp/article/mjir/11/0/11_150_27/_pdf/-char/ja

第3回医療系大学のための教学IRセミナーを開催しました

本学IR室では、IRの他大学への普及に向けた取り組みとして、昨年に引き続き獨協医科大学教学IRセンターと合同で、「第3回医療系大学のための教学IRセミナー ―大学の入り口を教学IRで考える―」を去る9月15日（金）午後1時から東京都内の会場（アットビジネスセンター池袋駅前 別館 706号室）とZoomによるハイブリッド方式で開催しました。



参加者は、前年の34校63名を上回る54校100名（主催者・スタッフを除く）となりました。

内訳は、参加大学の設置区分については、私立大学33大学67名、国立大学14大学19名、公立大学5大学6名、この他、看護専門学校や高校からもご参加頂きました。参加者の担当学部の別については、医学部46名、看護学部12名、薬学部2名、歯学部2名、全学部14名、その他24名でした。参加者の職種の別については、教員59名、事務職員39名、その他2名でした。IR経験年数は、「経験なし」が28名、「1年未満」が8名、「1～3年未満」が0名、「3～5年未満」が35名、「5年以上」が14名、「その他」が15名でした。

当日は、獨協医科大学教学IRセンター平林 秀樹センター長による開会挨拶の後、第一部「講演1」として、茨城大学全学教育機構総合教育企画部門 嶋田敏行教授による「社会から求められている医療系入試について」、「講演2」とし

て、株式会社進研アド上原雄太氏による「医療系大学における学生募集の最新動向」、「講演3」として、本学IR室 柝澤健史副室長による「医療系入試をどう分析するか?」、「講演4」として、獨協医科大学教学IRセンター 山岸秀嗣准教授による「人間性豊かな医療人を育てるのには?」の4演題の講演の後、質疑応答が行われ、本学IR室 宮崎誠教授の中締めのご挨拶により、2時間を超えるZoom配信を終えました。

休憩を挟んで、会場限定イベントとして開催された第2部はワークショップ形式で進行し、「ワーク1：大阪医科薬科大学の実践事例を自分のものにしよう!」と「ワーク2：本日の話を受けて今後の自大学での教学IR活動を話し合う。」をテーマに、忌憚ない意見交換が行われました。

その後、場所を変えて情報交換会が行われ、全日程を滞りなく終了しました。

IR室では、今後もこの取り組みを定期的に実施致します。ご参加お待ちしております。



柝澤副室長の講演



教学IRセミナーの様相

第3回 医療系大学のための教学IRセミナー

スケジュール

13:00 開会の挨拶（獨協医科大学 平林秀樹）

第1部

13:05～15:05 大学の入り口を教学IRで考える

- 13:05 ① 社会から求められている医療系入試について（茨城大学 嶋田敏行）
- 13:19 ② 医療系大学における学生募集の最新動向（進研アド 上原雄太）
- 13:43 ③ 医療系入試をどう分析するか?（大阪医科薬科大学 柝澤健史）
- 14:18 ④ 人間性豊かな医療人を育てるのには?（獨協医科大学 山岸秀嗣）
- 14:46 質疑応答
- 15:04 第1部終了の挨拶（大阪医科薬科大学 宮崎誠）

第2部

15:15～17:05 ワークショップ

実際のスケジュール

教育年報（2022年度）制作進む

教育年報（2022年度）は、本学の教育の質を保証するための資料として、一昨年にプロトタイプ版の制作を開始して以来、今回が3冊目の制作となります。

今回は、医学部、薬学部、看護学部の各学部及び各学務事務担当課のご協力の下、順調に制作が進んでおり、11月頃の上梓、学内配付を目指しております。配付につきましては、昨年度同様、冊子版及びPDF版の配付を予定しております。

編集後記

「IRだより」第9号は、第1面では、キャンパスライフレポートの上梓と文教政策、第2面では本学主催の教学IRセミナー開催、教育年報の制作状況についてお届けしました。

次号第10号は1月のお届けを予定しております。

IRだより 2023年10月号（第9号）

発行年月日：2023年10月1日
 発行者：大阪医科薬科大学
 編集集：大阪医科薬科大学IR室